

株式会社フジイサウンドテクノ

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間：2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日)



「0012667」

発行日：2024 年 3 月 29 日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	2
1. 組織の概要	3
2. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
3. 環境経営目標及びその実績	5
4. 環境経営計画及びその評価・次年度の計画	6
5. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無	7
6. 外部からの環境上の苦情・要請等	7
7. 避難訓練	8～9
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示	10



放蒸用消音器
型式:BOC-900NLF

当社は消音器から無響室まで、お客様の音環境作りをトータルにサポートするエンジニアリングメーカーです。
お客様の満足度向上を第一に考えながら、環境へも配慮した製品とサービスをご提供しております。

環境経営方針

環境経営理念

株式会社フジイサウンドテクノは騒音問題の解決を通して音環境を中心とした快適な空間を提供することで社会に貢献し 信頼される環境エンジニアリング企業を目指しております。

同時に、事業活動を展開することは 環境への負荷をもたらすものであり広く環境対策に取り組むことが重要であると考えています。このような認識のもと全ての事業活動を通じて温室効果ガス削減をはじめとする環境保全対策に取り組むとともに、省資源対策に取り組む持続的な発展が可能な社会づくりに貢献いたします。

基本方針

- 1: 節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素排出量を削減し地球温暖化防止対策に努めます。
- 2: 省資源による仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
- 3: 節水に努め、使用量を低減します。
- 4: 市場動向の分析、作業効率化で無駄を省き受注率増を目指します。
- 5: 環境関連法規と当社が同意するその他の要求事項を遵守いたします。
- 6: すべての従業員の環境管理に関する意識を高め、全員で環境経営の継続的改善に取り組みます。
- 7: この方針を当社で働く全ての従業員に周知します。

制定日 2018年7月13日

株式会社 フジイ サウンドテクノ

代表取締役

山崎 雅和

1. 組織の概要

・事業所名及び代表者氏名

株式会社フジイサウンドテクノ

代表取締役 山崎 雅和

・所在地

本 社:東京都新宿区戸塚町 1 丁目 101

分 室:東京都西早稲田 1 丁目 1-3 フジウラビル 2F

・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者(担当者と兼務)

営業グループ兼総務部主任 小澤 洋子

TEL:03-3203-1403 FAX:03-3200-5228

Eメール:silencer@soundtechno.co.jp

・事業活動の内容

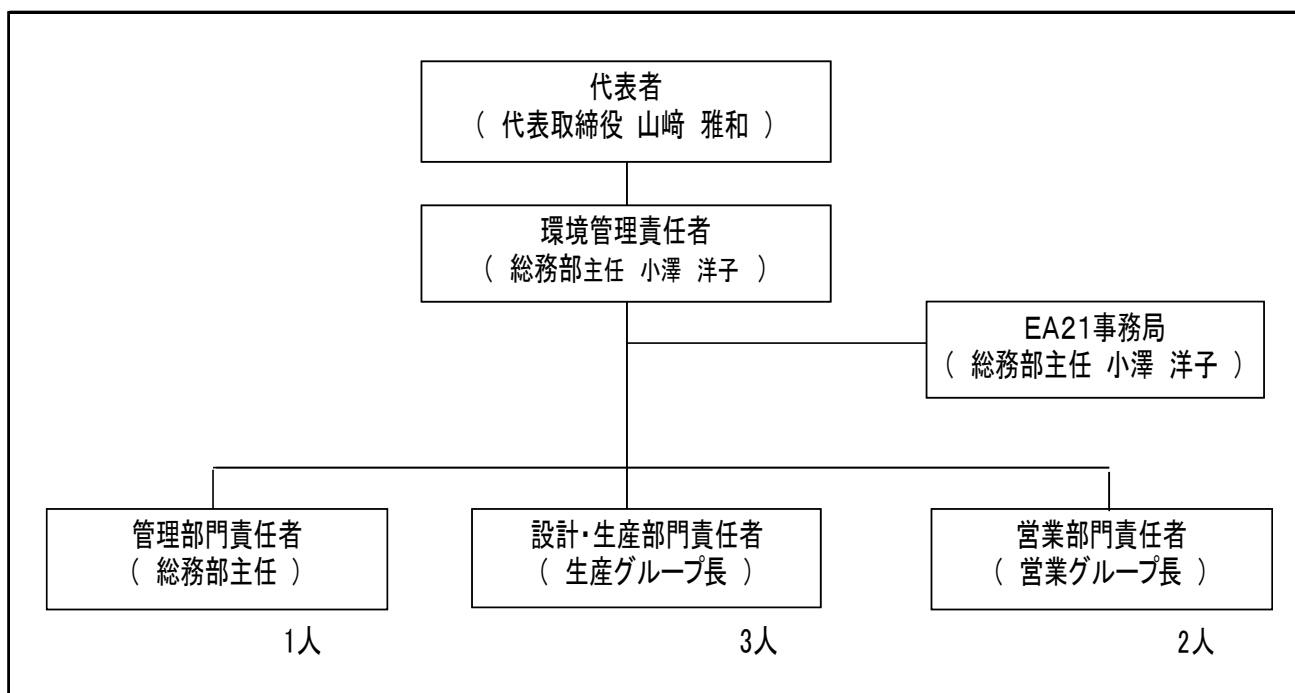
消音器・防音カバー・プラントの防音対策・無響室の設計・施工管理

・事業の規模

	本社
従業員数	7 名
延床面積	59.51 m ²

当社は、全組織・全活動を対象としています。

2. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表



対象者	役割、責任及び権限
代表者	1. 取り組みの対象組織・活動の明確化(要求事項1) 2. 代表者による経営における課題とチャンスとの明確化(要求事項2) 3. 環境経営方針の策定、全従業員に周知(要求事項3) 4. 実施体制の構築(要求事項7) 5. 代表者による全体の評価と見直し(要求事項14) 6. 環境経営レポートの承認 7. その他
環境管理責任者 (EA21事務局)	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価(要求事項4:事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ(要求事項5:事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定(要求事項6) 4. 環境コミュニケーションの実施(要求事項9) 5. 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防(要求事項13) 6. 文書類の作成・管理(要求事項12:事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表(事務局担当)、確認(環責) 8. その他
部門責任者	1. 教育・訓練の実施(要求事項8) 2. 実施及び運用(要求事項10) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応(要求事項11) 4. その他
全従業員	1. 環境経営方針の理解及び環境問題の現状と環境への取組の重要性の認識 2. 環境経営目標、環境経営計画などに基づくEA21活動の実施 3. EA21活動に関する提案

3. 環境経営目標及びその実績

3-1. 環境経営目標

	2019年度 基準年度	2023年度	2024年度	2025年度
1. 二酸化炭素排出量削減				
・電気 (kWh／年)	8,787	△4%	△5%	△6%
・ガソリン (L／年)	2276	△4%	△5%	△6%
・CO ₂ 合計(kg-CO ₂ ／年)	9,449	△3%	△4%	△5%
・CO ₂ 原単位(kg-CO ₂ ／万円)	0.315	△3%	△4%	△5%
2. 一般廃棄物排出量の削減 (kg／年)	896	△4%	△4%	△4%
3. 水使用量の削減(m ³ ／年)	18	△3%	△3%	△3%
4. グリーン購入の推進	15%	18.8%	19.5%	20.25%
5. 受注率の向上(受注率)	30%	37.5%	39%	40.5%

※基準年度は、2019年1月～2019年12月

※CO₂排出係数は、H28年東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数 0.474kg-CO₂/kWh を使用した。

3-2. 12ヶ月運用結果(2023年1月～2023年12月)

	基準年同月	目標	実績	目標達成状況
1. 二酸化炭素排出量削減				
・電気 (kWh／年)	8,787	△4% 8,436	7,963	○
・ガソリン (L／年)	2,276	△4% 2,185	1,971	○
・CO ₂ 合計(kg-CO ₂ ／12ヵ月) (CO ₂ 総排出量)	9,449	△3% 9,071	8,351	○
・CO ₂ 原単位(kg-CO ₂ ／万円)	0.362	△3% 0.351	0.406	×
2. 一般廃棄物排出量の削減 (kg／年)	866	△4% 831.7	402	○
3. 水使用量の削減(m ³ ／年)	18	△3% 17	7	○
4. グリーン購入の推進(%)	15%	18%	44%	○
5. 受注率の向上(受注率)	30%	38%	36%	×

○目標達成 △目標未達成但し基準年度より改善 ×目標未達成

4. 環境経営計画及び取組結果と評価ならびに次年度の取組内容

環境経営 目標項目	環境経営計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
1) 電力使用 量の削減	空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃)	従業員がテレワーク、出張等で不在の場合、事務所のLED電球を半分消灯していた事により目標を達成出来た。使用していない場所の照明を消灯する事で電力使用量が削減する事が証明されたので今後も消灯の間引きを継続する。	前年度の取組を維持しつつ、テレワークでの作業を行いやすくし、出勤を減らす事で電力使用量の削減を目指す。その為の取り組みとして、書類をデータ化し、自宅での作業の効率化を図っていく。
	使用していない部屋のエアコンの電源をオフにする		
	休憩時間は照明をオフにする		
	コピー機のスリープモード設定		
	働き方改革		
	・長時間労働の削減対策として資料の		
	電子化を推進		
	・テレワーク作業の効率化を図り、 残業時間を削減する。		
2) 化石燃料 使用量の削減	ガソリン	公共交通機関と車両の使い分けを行った事によって目標を達成出来た。来期は燃費のよい車両への乗り換えを検討している。	燃費の良い車への乗り換えを検討。
	停車時のアイドリングストップの励行		
	急加速・急停車の防止		
	定期的にタイヤ空気圧をチェック		
	冷房の控え目使用		
	車両以外の交通手段を併用		
	中期計画 燃費の良い車への買い替え		
1) 廃棄物 排出量の削減	分別管理の周知徹底	現在実施しているテレワーク作業の効率が高いため引き続き継続する。2024年から施行される電子法に向け電子での書類収納を開始した事で更に効果が高まった。	前年度の取組を維持。
	ミスコピーの削減		
	ミスコピーの裏紙使用		
	電子メディアによるペーパーレス化		
水使用量の 削減	節水の意識を高め、徹底	事務作業が主な為、生活に必要な水のみ使用しており、基本料金(基本量)を超えていない為目標は達成できている。	前年度の取組を維持。
	節水シールの貼り付けとポスター掲示		
1) グリーン購 入の推進	グリーン購入に留意した購入	現在アスクルグリーンのみの使用となっており目標は達成されているのだが、昨年度とほぼ横ばい。	グリーンアスクル以外の環境配慮事務用品の購入の検討。
	環境配慮事務用品等の購入		
	アスクルグリーンの利用		
2) 受注率の 向上	仕事の選別	受注率は低い、大型案件が多く、利益率は上がっている。	お客様からの要望があれば感染対策を行った上で迅速に現地に向かい説明をするなどの営業努力を強める
	業務の効率化(情報の共有)		
	コロナ感染予防の徹底		

5. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無

当社に關係する環境関連法規などは下記の通りですが、遵守状況を 2023 年 3 月に確認した結果、違反はありませんでした。

また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。

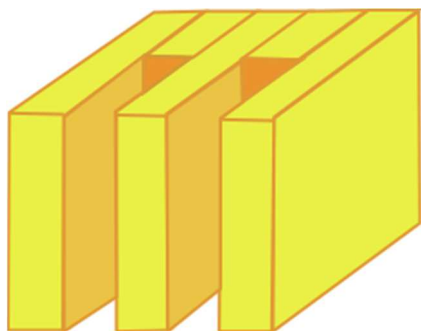
区分	環境関連法規等名称	遵守状況 確認・評価
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)(一般廃棄物の処理)	○
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)(産業廃棄物の適正処理)	—
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	○
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	○
	使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	○

6. 外部からの環境上の苦情・要請等

今期は外部からの環境上の苦情、要請ありませんでした。

当社製品紹介

F 型吸音体



近年“騒音”が公害の根深い要因となって発生源機器類の低騒化が急務とされる時“自由音場”の必要から、“無響室”の必要性が高まっている。無響室についてはその吸音構造と機能が必要であり従来 Meyer の開発した“楔型”が一般に用いられ、その他に“層状型”(平面状)がありこの2種に大別されこの両者は機能、経済性共に格差が大きく又汚損、破損時の保守性に於いては難点があった。此処に着目昭和 38 年 F 型吸音体の開発に着手し、同 40 年完成、41 年都立荒川工業高等学校に第 1 号を納入した。

又 42 年「溝型吸音体の吸音力測定」として日本音響学会に発表、「吸音ブロック」として新案登録し、47 年更に機能度と耐用度を高めた改良型を開発し(実用新案申請中)49 年 U. S. P A T. を登録した、更に英、西独、仏、豪に P A T. 申請中である。機能に於いては“楔型”経済性では“平面状”に匹敵し保守性は独特の長所を持ち実用性を明確に打ち出している。

7. 避難訓練

2023年7月28日金曜 地震発生と仮定し、机上での討論を行った。

討論方法：事前にアンケートをデータにて配布。

当日そのアンケートを元に皆で討論を行った。

以下はその討論内容をまとめたものとなります。



7月28日金曜日 震度6弱の地震発生しました。
発生時：夕方15時 天気：晴れ 気温：32度 風速1m/s
この時事務所内はどんな状況になっていると思われますか。



家具、複合機の転倒、ファイルや、机上のPC他の機材の床上への散乱。
PCとモニターの転倒と破損、ケーブルの破損。
他にも窓ガラス等の破損と破片の散乱等も考えられると思います。



停電のため、照明が消えている。社内電話も使えない。
水道の停止に依る水の供給不可とトイレの使用不可。
倒壊は免れたが、損傷がひどく、余震などでの倒壊の可能性があるのでは？



入口扉がひしゃげていて開閉がしにくい状況。ゆがみで扉ガラスが破損。
扉、ベランダ側のサッシが開かなくなる。
水道管外れで、上階より漏水あり。
電車が止まり、復旧の目途立たないなんてのも聞きますね。



なるほど。
東日本大震災の時には東北で震度7の地震が発生しましたが、
東北から離れた東京都内でも震度5強の揺れを感じました。
あの時都内でも電車が止まり、帰宅困難者が出ましたね。



それでは、そうなった時、どんな意思決定、
行動をするのがよいのでしょうか？



むやみに外へ避難するのも危険でかつ余震の恐れもある為、
暫く机の下などに身を置き、地震が落ち着くまで様子を見る。
可能であるならば扉を開け避難路を確保する（無理はしない）。
ガラス等の破片が散乱している場合、
持っている者は安全靴に履き替える。
停電時には懐中電灯を使用。携帯のライトを使用する事も考えられるが、
通信機器としての役割もあり、多用は禁物です。



上部よりの落下物の危険もあるのでヘルメットを着用する。
無い場合はカバン等で頭部を守り、作業服を着込む等で露出部分を減らして、脱出を検討。作業用手袋も有効。
屋外で切れた電線に感電する恐れがあるので注意する。
前項の様に、掃き出し窓、出入口扉、階段が使用不可なので、通り側窓よりの脱出を計画。
事務所内の紐状（ブラインド操作紐、LANケーブル他）を集めて、より合わせてロープを作り、事務机に固定。そのロープを伝わり脱出。
2階なので落下してもケガ程度で済む可能性大。
着地する時には、ロープを最後まで掴んで足から着地する。



非常時ではありますが、ロープでの脱出は高齢者、女性にはなかなかハードルが高く、現実的ではないかもしれません。
しかし緊急脱出時用縄梯子を購入しておく事は必要と考えます。



屋外の状況を出来る限り確認し、移動可能な状況である場合ならば災害避難袋と通信手段のスマホを確保し、避難所（早稲田大学）への移動を行い交通手段の復活を待つ。
その間怪我をした社員の応急処置をする。可能であれば病院に連れていく。
避難場所でけが人やお年寄りなど手助けの必要な人がいれば手伝う。



交通機関が麻痺している場合、どのようにして病院に連れていくのか。
近場にどのような病院があるのか、緊急時に対応可能な病院なのかを確認しておく必要がありますね。



その他の意見・課題

1. 家族・知人との連絡を試みる。
2. 周囲の情報に惑わされてパニックにならないよう冷静に行動することを心がける。
3. 帰宅時間が夜の場合は懐中電灯が必要だが人数分の用意がない。
停電でエアコンが付かない場合は、どうするか。
4. 乾パン、飴を常備している。
5. 災害時用の水を常備しているが、現在2ℓのペットボトルの為個人使用には向かない為
個人で持ちやすい500mlの水に変更予定。
6. 消火器は2階にて分かりやすい所に常備
7. トイレ不可時には簡易トイレを使用する（常備している）。
8. 水漏れ等が起きた場合は大家へ連絡（大家は上の階に住んでいる）。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

見直し実施日：2024年1月15日

評価	電力使用量、化石燃料使用量は月ごとの増減はあるものの、通年では目標値をクリアし、かつ廃棄物排出量を加味したCO2排出総量でも目標をクリアしていた。 環境経営システムの取り組みは継続して行われており機能していた。	
見直し・指示	【環境経営方針】 資材価格高騰の中、環境経営システムの機能を維持させた。受注率向上の結果が出るまでこのまま活動を継続する。	☒ 変更なし ☐ 変更あり
	【環境経営目標及び環境経営計画】 弊社の経営環境は事務所作業のため（電力：冷暖房）（ガソリン：現場移動）が主要因になり、業務作業量により二酸化炭素排出量の増減が起こりやすいと感じる。統計を取り始めて年数が浅く、基準年とするデータの正当性が不明瞭と感じる。現在はコロナ禍から脱却し月次の使用量の差が穏やかになっている。今後、必要に応じ基準年度の見直しを行ってゆく。	☐ 変更なし ☒ 変更あり
	【実施体制】 システムが機能しているので現状の体制を維持、継続してゆく。	☒ 変更なし ☐ 変更あり
	【環境経営システム等】 今期はシステムの見直しは行わないが、目標未達が起こるようであれば、その必要においてシステムの変更を考慮する。	☒ 変更なし ☐ 変更あり
社長統括	コロナ禍からの脱却、原材料費高騰という外的環境の中、省エネを推進した製品づくりは他社との差別化を図るうえで大切なファクターであると認識した。また、多様化する客先のニーズに対応するためDX技術を駆使し受注率の向上とエコ活動に貢献できるよう努力を続けてゆく。	